

04.ペトロナスツインタワー



マレーシアの歩んだ数奇な近代の歴史、他を否定しない複数の宗教、他と共存しつつも独自性を失わない文化に触れ、マレーシアに関わる知識が増えるほどに、クアラルンプールの街の風景に理解が深まる。

再開発地域・最新建物と旧市街地・墓地等が微妙に入り混じり、その間を高速道路が走り、大渋滞・喧騒、混沌としたカオスを感じる街。

そのシンボルとなるのが、1996年完成の451.9mのペトロナスツインタワーである。

現在もツインタワーとして世界最高高さを誇り、柔構造ではなく超高強度コンクリートの積層工法と、イスラム様式の尖塔、そして奇抜なファサードが、何ともいえない重厚さを醸しだしている。

特に夜間のライトアップされたツインタワーは、圧倒的な存在感を放つ唯一無二の存在である。

完成当時のマレーシア国民の熱狂ぶりが想像される。それから、約30年、いまだにハザマがマレーシア人に認識されている事実に驚き、ハザマに在籍した建築屋として、先人の苦勞と輝かしい実績に感動する。

一方、地震と台風のない都市での建築物の林立が興味深く、日本で建築に携わった者には、ある意味、常識を破壊されるインパクトで驚嘆させられる。

構造にほぼ左右されることなく、自由奔放な発想で意匠・デザインを考えることのできる喜びを感じざるを得ない。

中藤昌彦